

3) 基本的な臨床検査

1) 一般尿検査(尿沈渣顕微鏡検査を含む)

- a. 尿を肉眼的に観察して血尿やビリルビン尿を判断できる
- b. 尿定性検査(試験紙法)を適切に行える
- c. 尿潜血陽性の場合の鑑別疾患を挙げることができる
- d. 尿蛋白陽性の場合の鑑別疾患を挙げることができる
- e. 尿沈渣標本作製することができる
- f. 弱拡大で尿沈渣の円柱の有無を判断できる
- g. 強拡大で尿沈渣の赤血球数、白血球数を数えることができる
- h. 強拡大で尿沈渣の赤血球の変形の有無を判断できる

(江村 正)

2) 便検査(潜血、虫卵)

- a. 大便の肉眼的な観察を行う習慣を身につける
- b. 肉眼でタール便を診断できる
- c. 直腸診で手袋に付着した便で便潜血検査を行うことができる
- d. 化学的便潜血検査と免疫学的便潜血検査の違いを述べることができる
- e. 虫卵検査の結果を解釈できる

(江村 正)

3) 血算・白血球分画

- a. 白血球数減少と増多の鑑別疾患を挙げることができる
- b. 白血球分画の結果(異常細胞の存在を含む)を解釈することができる
- c. 赤血球数減少と増多の鑑別疾患を挙げることができる
- d. 平均赤血球容積(MCV)などをもとに貧血を分類できる
- e. 血小板数減少と増多の鑑別疾患を挙げることができる
- f. 偽性血小板減少の機序と鑑別方法について述べるることができる

(江村 正)

4) 血液型判定・交差適合試験

- a. おもて(抗血清試薬)試験とうら(血球試薬)試験を実施し ABO 血液型を判定できる
- b. 抗血清試薬を用いて Rh₀(D) 血液型を判定できる
- c. 交差適合試験(室温、生理食塩水法)を実施し ABO 血液型適合血を判定できる
- d. 不規則抗体スクリーニング検査の意義を説明できる
- e. 交差適合試験(37℃、間接抗グロブリン法)の必要性を説明できる

(半田 誠)

5) 心電図(12誘導)

- a. 心電図(12誘導)検査を単独で実施できる
- b. 心電図(12誘導)検査結果について一定の手順で以下の所見を述べることができる
 - (ア) 記録条件
 - (イ) 心拍数とリズム
 - (ウ) 電気軸
 - (エ) P波
 - (オ) PR間隔
 - (カ) QRS
 - (キ) ST-T
 - (ク) U
 - (ケ) QTc
- c. 心電図(12誘導)検査結果にて以下の明らかな異常所見を指摘できる
 - (ア) 上室性期外収縮
 - (イ) 心室性期外収縮
 - (ウ) 発作性上室性頻拍
 - (エ) 心房細動
 - (オ) 心房粗動
 - (カ) 心室細動
 - (キ) 心室頻拍
 - (ク) 狭心症
 - (ケ) 心筋梗塞
 - (コ) 心筋症

(江村 正)

6) 動脈血ガス分析

- a. 動脈血ガス分析の適応を述べることができる
- b. 単独で動脈血の採血ができる
- c. 採血時の呼吸条件,呼吸数を動脈血ガス分析の結果とともに記載する習慣を身につける
- d. 動脈血ガス分析の結果から以下の明らかな異常所見(それぞれ代償されたものも含む)を把握できる
 - (ア) 代謝性アシドーシス
 - (イ) 代謝性アルカローシス
 - (ウ) 呼吸性アシドーシス
 - (エ) 呼吸性アルカローシス
- e. 酸素飽和度と酸素分圧の乖離を指摘しその原因を推測(検体放置、白血病細胞増多による酸素消費など)できる

(江村 正)

7) 血液生化学的検査

- a. 適切な検査項目を選択してオーダーすることができる
- b. 検査項目に適した条件で採血できる(脂質, ホルモンなど)
- c. 逸脱酵素の臓器別分布の知識を基に肝障害と筋障害の鑑別ができる
- d. 血清尿素窒素(BUN)とクレアチニン(Cr)の乖離を指摘し病態を解釈できる
- e. 適切な間隔で検査をオーダーする習慣を身につける(毎日のように採血しない)
- f. 簡易血糖測定が単独で行える

(江村 正)

8) 血液免疫血清学的検査

- a. 肝炎ウイルス関連検査の意義を説明できる
- b. ウイルス抗体価、グロブリンクラス別 (IgM、IgG などの) ウイルス抗体価の解釈ができる
- c. 梅毒血清反応検査の結果の解釈ができる
- d. 主要な自己免疫疾患とその診断に有用な自己抗体検査を述べることができる
- e. 主要な自己抗体検査の感度と特異度を把握し検査結果を解釈できる

(江村 正)

9) 細菌学的・薬剤感受性検査

- a. 適切な検体採取ができる
 - (ア) 無菌的に血液培養が行える
 - (イ) 膿性喀痰と唾液を判別できる
 - (ウ) 中間尿の採取方法を患者にわかりやすく説明できる
- b. グラム染色が単独で行える
- c. 検査結果を参考に感染に関係している菌と常在もしくは定着 (colonization) している菌を判別できる
- d. 薬剤感受性の結果から適切な抗生物質を選択できる
- e. 迅速検査を適切にオーダーできる

(江村 正)

10) 肺機能検査

- a. 以下の検査について適応と禁忌を述べられる
スパイロメトリー フローボリューム曲線 気道可逆性検査
- b. 以下の肺機能検査について説明し、適切な検査指示を出すことができる
最大吸気位 安静吸気位 安静呼気位 最大呼気位全肺気量 肺活量 最大吸気量
機能的残気量 予備吸気量 一回換気量 予備呼気量 残気量 努力肺活量
一秒量最大呼気流量 V_{50} V_{25} V_{50}/V_{25} 気道可逆性
- c. 以下の換気障害の分類と該当する疾患を列挙できる
閉塞性換気障害 拘束性換気障害 混合性換気障害
- d. 以下の疾患の肺機能検査を評価できる
慢性閉塞性肺疾患(COPD) 気管支喘息 間質性肺炎 肺結核後遺症(胸郭形成術後または高度な変化を伴う)

(佐藤 誠、中山 秀章)

11) 髄液検査

- a. 髄液検査の適応と禁忌を述べることができる
- b. 髄液検査に伴う偶発症と合併症を述べることができる
- c. 髄液検査に必要な器具を準備することができる
- d. 髄液検査に適した体位をとらせることができる
- e. 安全な穿刺部位を同定できる
- f. 穿刺部位の消毒と局所麻酔ができる
- g. 検査針を髄腔内まで適切に挿入できる
- h. 三方活栓と検圧用のガラス管を用いて初圧と終圧を測定できる
- i. 髄液検査の結果を説明できる
- j. 検査後の低髄圧性頭痛の特徴や対処法を述べることができる

(高橋 一夫)

12) 細胞診・病理組織検査

1. 細胞診の具体的到達度の目安

- a. 細胞診の目的と有用性と限界を説明できる
- b. 細胞診の主要な検査材料について適切な検体採取法を説明できる
- c. 指摘された細胞診所見を理解できる
- d. 指摘された異常所見を光学顕微鏡下または写真上で示すことができる

2. 病理組織検査の具体的到達度の目安

- a. 病理組織検査の目的と必要性を説明できる
- b. 主要な病理組織検査の検体採取の適応を判断できる
- c. 病理医が指摘した病理所見を理解できる
- d. 病理医が指摘した異常所見を光学顕微鏡下または写真上で示すことができる

(川田 浩志、米倉 修司)

13) 内視鏡検査(呼吸器)

- a. 気管支鏡検査の適応と禁忌を述べることができる
- b. 下記の基本手技を述べることができる
 - 前処置
 - 麻酔法
 - 挿入法
 - 気道分泌物の吸引法
- c. 合併症とその対策を述べることができる
- d. 下記の気道の解剖を述べることができる
 - 気管支壁の組織学的構造
 - 気管支分岐の命名
- e. 正常気管支鏡所見を述べることができる

(酒井 洋)

内視鏡検査(消化器)

消化器内視鏡機器の取り扱い、検査の偶発症とその対策

- a. 内視鏡機器の種類と原理を説明できる
- b. 検査前、検査後における内視鏡機器の基本的な取り扱いができる
- c. 内視鏡機器の洗浄消毒法を概説することができる
- d. 消化器内視鏡検査および治療の偶発症と対策を概説することができる

上部消化管内視鏡検査

- a. 上部消化管内視鏡検査の適応を述べることができる
- b. 上部消化管内視鏡検査を受ける患者の前処置について指導できる
- c. 上部消化管内視鏡検査に必要な器具を準備することができる
- d. 上部消化管内視鏡検査に適した体位(左側臥位)をとらせ、機器を配置することができる
- e. 検査中の生検などの処置を介助することができる
- f. 検査中の部位について説明できる
- g. 上部消化管内視鏡検査における正常所見を説明できる
- h. 上部消化管内視鏡検査における代表的な異常所見を説明できる
- i. 上部消化管内視鏡検査の偶発症と対策を概説することができる

大腸内視鏡検査

- a. 大腸内視鏡検査の適応を述べることができる
- b. 大腸内視鏡検査を受ける患者の前処置について指導できる
- c. 大腸内視鏡検査に必要な器具を準備することができる
- d. 大腸内視鏡検査に適した体位(左側臥位)をとらせ、機器を配置することができる
- e. 検査中の生検などの処置を介助することができる
- f. 検査中の部位について説明できる
- g. 大腸内視鏡検査における正常所見を説明できる
- h. 大腸内視鏡検査における代表的な異常所見を説明できる
- i. 大腸内視鏡検査の偶発症と対策を概説することができる

緊急内視鏡検査

- a. 緊急内視鏡検査の適応を述べることができる
- b. 緊急内視鏡検査に必要な器具を準備することができる
- c. 緊急内視鏡検査に適した体位(左側臥位)をとらせ、機器を配置することができる
- d. 検査中の止血術などの処置を介助することができる
- e. 検査中の部位について説明できる
- f. 緊急内視鏡検査に続いて必要な治療について説明できる

その他

- a. 高齢者の内視鏡検査の適応と禁忌を説明できる

(中村 哲也)

14) 超音波検査

超音波検査一般

- a. 患者の病態や臨床症状、臨床所見、臨床検査結果に基づいた超音波検査適応の判断、および適切な検査部位・臓器の選択ができる
- b. 目的に応じた基本的な超音波検査ができる
- c. 超音波検査結果に基づいて鑑別診断をあげ、次の検査の計画が立てられる
- d. 超音波検査と他の画像検査(X線 CT、MRI、核医学、血管造影)の長所・短所を説明できる

循環器超音波検査

- a. 胸骨左縁からの長軸像を描出し、描出された心・大血管構造を説明できる
- b. 胸骨左縁長軸像で、左室、左房、右室および大動脈の高度の拡大を指摘できる
- c. 高度の左室収縮異常(びまん性、局所的)、高度の左室肥大、および高度の心膜液貯留の有無を、断層心エコー法で同定できる
- d. 高度の弁狭窄と高度の弁逆流を、断層心エコー法とカラードプラ法で同定できる

腹部超音波検査

- a. 肝臓の解剖学的右葉と左葉の区分、および外科的右葉と左葉の区分を説明できる
- b. 肝臓の明らかな空間占拠病変(SOL)を同定できる
- c. 肝硬変の病因・病態・症候および超音波像を説明できる
- d. 胆嚢の解剖学的位置、形状、各部位の解剖、機能、血管支配などを説明できる
- e. 胆嚢結石を描出でき、その超音波像を構成する各所見について説明できる
- f. 腹部大動脈の解剖、走行およびその主要分枝(腹腔動脈幹、上腸間膜動脈、腎動脈など)を説明でき、描出できる
- g. 下大静脈の解剖、走行およびその主要分枝(腎静脈、総腸骨静脈など)を説明でき、描出できる
- h. 超音波にて腎臓を描出し、腎臓の位置、形状、大きさ、周囲臓器との関係を説明できる
- i. 胸水、腹水の高度貯留を同定できる

頸動脈超音波検査

- a. 頸動脈を含めた末梢動脈、静脈の解剖について説明できる
- b. 動脈硬化の超音波像を説明できる

(竹中 克)

15) 単純X線検査

単純X線検査は、どの施設においても簡便に施行できることもあり、安易に施行される危険性も高い検査である。胸部、腹部の適応疾患は多く、その有用性はほぼ確立しており、プライマリ・ケアの観点からもこの2部位については検査の適応から結果の解釈まで初期研修の段階で習熟することが望ましい。外傷の評価の骨・関節X線検査を除いて、他の部位(頭部、脊柱、骨盤、乳腺など)は、適応が限られる。

- a. X線の線量や生体に対する影響、被曝や防護の基本について説明できる
- b. 検査によって得られる情報と被曝による患者の不利益とを比較した上で、検査の適応を決定することができる
- c. 病歴や理学所見により、胸部、腹部、骨・関節のどの部位の単純X線撮影に適応があるかどうか判断することができ、患者に説明できる
- d. 専門医に相談の上、頭部、骨関節の中の脊椎、骨盤部、乳腺等の部位の撮影の適応を決定することが望ましい

(大久保 俊彦)

16) 造影X線検査

造影X線検査は、消化管、血管、胆管、リンパ管、脳脊髄腔等全身の臓器に及び、使用される造影剤も、油性、水溶性、ヨード系、バリウムなどに多岐にわたっている。CT、MRI の進歩により取って代われつつある検査も多い。しかし、尿路造影、消化管造影、血管造影は依然として、臨床において重要な位置を占めている。そこで、初期研修においては、これらの3検査項目に限っては、以下に述べるような基本的な知識の習得が望ましい。その内容については、安全管理の観点から、検査の適応の確認、十分な説明と同意の取得、副作用や合併症に関する事項が重要である。

- a. 尿路造影、消化管造影検査、血管造影検査の適応を説明できる
- b. 造影剤の種類、副作用、禁忌について説明できる
- c. 検査施行医とともに、検査前に患者への十分な説明ができ、同意を取得できる
- d. 検査目的に応じた最適な造影剤注入法が選択できる
- e. 造影剤の漏出、疼痛等の合併症への対応が説明できる
- f. ショック、喉頭浮腫など重篤な副作用への対応が説明できる

(大久保 敏之)

17) X線 CT 検査

X線 CT 検査は、精査のためのものであり周到な病歴聴取、理学的所見の取得、他の臨床検査の結果を総合して、適応が決定されるべきである。また、この決定には CT 検査の詳細に精通し、結果の解釈が可能な高度の専門性が要求される。したがって、X線 CT 検査は、常に放射線診断専門医が介在してその適応が決定され、施行および結果の解釈が行われるべきものであり、初期臨床研修においては、放射線診断専門医と正確な情報のやり取りが可能となる必要最小限の知識の習得が主眼となる。

- a. 画像診断医に正確に情報を伝え、CT 検査の適応の判断することができる
- b. 検査施行医とともに、検査前に患者への十分な説明ができ、同意を取得できる
- c. CT 検査の前処置、後処置について説明することができる
- d. 造影剤の種類、副作用、禁忌について説明できる
- e. 検査目的に応じた最適な造影剤注入法が選択できる
- f. 造影剤の漏出、疼痛等の合併症への対応が説明できる
- g. ショック、喉頭浮腫など重篤な副作用への対応が説明できる

(大久保 敏之)

18)MRI 検査

MRI 検査は精査のためのものであり、周到な病歴聴取、理学的所見の取得、他の臨床検査の結果を総合して適応が決定されるべきである。この決定には、MRI 検査の詳細に精通し、結果の解釈が可能な高度の専門性が要求される。また、医療経済上もX線 CT 検査との使い分けにも配慮が必要である。したがって、MRI 検査は常に放射線診断専門医が介在してその適応が決められ、施行および結果の解釈が行われるべきものであり、初期臨床研修においては放射線診断専門医と正確な情報のやり取りが可能となる必要最小限の知識の習得が主眼となる。

- a. 画像診断医に正確に情報を伝え、MRI 検査の適応の判断を検討することができる
- b. 検査前に患者様への十分な説明ができ、同意を取得することができる
- c. MRI 検査の前処置、後処置について説明することができる

(大久保 敏之)

19)核医学検査

SPECT

血液・造血器・リンパ網内系

⁶⁷Ga 腫瘍シンチグラフィ

- a. 適応となる疾患・病態を述べることができる
悪性リンパ腫
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べることができる
正常分布像
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
異常集積:悪性リンパ腫

神経系

脳血流シンチグラフィ

- a. 適応となる疾患・病態を述べることができる
脳梗塞
認知症疾患
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べることができる
脳への集積原理
脳血流シンチグラムにおける脳血管支配領域
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
低血流:脳梗塞、認知症疾患
高血流:脳梗塞
Diaschisis

運動器(筋骨格)系

骨シンチグラフィ

- a. 適応となる疾患・病態を述べることができる
悪性腫瘍の骨転移
骨折(特にストレス骨折)
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べることができる
骨への集積原理
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
異常集積:転移、ストレス骨折

循環器系

心筋血流シンチグラフィ(安静、負荷)

- a. 適応となる疾患・病態を述べるができる
虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べるができる
心筋への集積原理
心筋血流シンチグラムにおける冠動脈領域
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
血流欠損(安静):心筋梗塞
固定性血流低下(負荷):心筋梗塞
早期時血流低下の再分布(負荷):狭心症

下肢ペノグラフィ

- a. 適応となる疾患・病態を述べるができる
深部静脈血栓症
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べるができる
下肢の主要深部静脈の解剖
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
深部静脈の途絶と側副血行路:深部静脈血栓症

リンパシンチグラフィ

- a. 適応となる疾患・病態を述べるができる
リンパ浮腫
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べるができる
下肢の主要リンパ系の解剖
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
皮膚への逆流:リンパ浮腫

呼吸器系

肺血流シンチグラフィ、肺換気シンチグラフィ

- a. 適応となる疾患・病態を述べるができる
肺塞栓
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べるができる
肺への集積原理(血流、換気)
肺血流、肺換気シンチグラムにおける肺区域
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
区域性(亜区域性)血流欠損:肺塞栓
肺血流・肺換気ミスマッチ:肺塞栓

消化器系

消化管出血シンチグラフィ

- a. 適応となる疾患・病態を述べるができる
消化管出血(特に小腸)
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べるができる
腹部血管・血液プール像
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
消化管出血の部位同定:消化管出血

腎・尿路系

- a. 適応となる疾患・病態を述べるができる
急性腎不全
二次性高血圧(腎性、腎血管性高血圧)
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べるができる
腎への集積原理
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
腎機能低下:急性腎不全、腎性および腎血管性高血圧
カプトプリル投与における腎機能低下:腎血管性高血圧

内分泌系

甲状腺シンチグラフィ、ヨード甲状腺摂取率

- a. 適応となる疾患・病態を述べるができる
甲状腺機能亢進症(バセドウ病、プランマー病)
甲状腺機能低下症
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べるができる
甲状腺への集積原理
甲状腺の位置と大きさ
ヨード甲状腺摂取率の正常値
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
甲状腺全体の集積低下:甲状腺機能低下症
甲状腺全体の集積増加:バセドウ病
hot nodule:プランマー病
位置の異常:異所性甲状腺腫

副腎皮質シンチグラフィ

- a. 適応となる疾患・病態を述べるができる
二次性高血圧(クッシング症候群、原発性アルドステロン症)
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べるができる
副腎皮質への集積原理
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
副腎への集積増加:クッシング症候群、原発性アルドステロン症

副腎髓質シンチグラフィ

- a. 適応となる疾患・病態を述べることができる
 二次性高血圧(褐色細胞腫)
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べることができる
 副腎髓質への集積原理
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
 副腎および副腎外への異常集積増加:褐色細胞腫等

(油野 民雄)

19) 核医学検査

PET

血液・造血器・リンパ網内系

¹⁸F FDG を用いた PET 検査 (ポジトロン断層撮影)

- a. 適応となる疾患・病態を述べるができる
悪性リンパ腫
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べるができる
生理的集積部位を含む正常分布像
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
異常集積: 悪性リンパ腫

神経系

¹⁵O ガス剤を用いた PET 検査 (ポジトロン断層撮影)

- a. 適応となる疾患・病態を述べるができる
脳梗塞
脳出血
くも膜下出血
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べるができる
脳血流量、脳酸素消費量、脳酸素摂取率、脳血液量測定の原理
脳血流量画像における脳血管支配領域
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
血流低下・欠損: 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血
貧困灌流 (misery perfusion): 脳梗塞、くも膜下出血
贅沢灌流 (luxury perfusion): 脳梗塞
Crossed cerebellar diaschisis (CCD)

循環器系

¹⁸F FDG を用いた PET 検査 (ポジトロン断層撮影)

- a. 適応となる疾患・病態を述べるができる
心筋梗塞における心筋バイアピリティ (viability) の判定
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べるができる
心筋への集積原理 (糖代謝)
PET 画像における冠動脈支配領域
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる

心筋血流低下部位における ^{18}F FDG 集積低下:心筋バイアビリティなし

心筋血流低下部位における ^{18}F FDG 集積保持:心筋バイアビリティあり

呼吸器系

^{18}F FDG を用いた PET 検査(ポジトロン断層撮影)

- a. 適応となる疾患・病態を述べることができる
肺癌
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べることができる
生理的集積部位を含む正常分布像
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
異常集積:肺癌の原発巣、リンパ節および遠隔転移、再発

消化器系

^{18}F FDG を用いた PET 検査(ポジトロン断層撮影)

- a. 適応となる疾患・病態を述べることができる
転移性肝癌
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べることができる
生理的集積部位を含む正常分布像
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
異常集積:転移性肝癌

妊娠分娩と生殖器疾患

^{18}F FDG を用いた PET 検査(ポジトロン断層撮影)

- a. 適応となる疾患・病態を述べることができる
乳癌
- b. 以下の正常所見の成り立ちを述べることができる
生理的集積部位を含む正常分布像
- c. 以下の代表的な異常所見を指摘できる
異常集積:乳癌の原発巣、リンパ節および遠隔転移、再発

(伊藤 健吾)

20) 神経生理学的検査

1. 筋電図 (針筋電図、末梢神経伝導速度検査、誘発筋電図、表面筋電図)

- a. 基本的な筋電図検査計画を立てることができる
- b. 筋電図検査で神経専門医の補助ができる
- c. 神経専門医の指導を受けながら筋電図検査の報告書を作成できる
- d. 針筋電図検査で以下の事柄について説明できる
 1. insertional activity
 2. spontaneous discharge
 3. motor unite potential(MUP)の振幅、持続時間、相の数
 4. 干渉波形の有無
 5. 筋原性変化
 6. 神経原性変化
- e. 末梢神経伝導速度検査で以下の事柄について説明できる
 1. CMAP(compound muscle action potential 複合筋活動電位)
 2. SNAP(sensory nerve action potential 感覚神経活動電位)
 3. MCV(motor nerve conduciton verosity 運動神経伝導速度)
 4. SCV(sensory nerve conduction verosity 感覚神経伝導毒度)
 5. F 波
 6. conductoin block
 7. CMAP の temporal dispersion
 8. 脱髄
 9. 軸索障害
 10. 神経反復刺激による waning、waxing
- f. 表面筋電図所見から典型的な不随意運動を指摘できる

2. 脳波

- a. 基本的な脳波検査計画を立てることができる
- b. 脳波検査で神経専門医の補助ができる
- c. 神経専門医の指導を受けながら脳波検査報告書を作成できる
- d. 以下の事柄について説明できる
 1. 10-20 法
 2. 電極抵抗
 3. 眼球運動、筋電図、心電図などによる artifact
 4. 閉眼安静時の基礎律動
 5. alpha 波、beta 波、theta 波、delta 波
 6. 睡眠脳波
 7. sharp wave、spike、spike and wave
 8. てんかん発作波
 9. 三相波

10. periodic synchronous discharge(PSD)

11. 平坦脳波

3. 誘発電位(SEP、VEP、ABR)

- a. 基本的な誘発電位検査計画を立てることができる
- b. 誘発電位検査で神経専門医の補助ができる
- c. 神経専門医の指導を受けながら誘発電位検査報告書の作成ができる
- d. SEP(somatosensory evoked potential 体性感覚誘発電位)の代表的な異常所見を説明できる
- e. ABR(auditory brain-stem response 聴性脳幹誘発反応)の代表的な異常所見を説明できる
- f. VEP(visual evoked potential 視覚誘発電位)の代表的な異常所見を説明できる

(川尻 真和)